

提 言

子どもと仕事。どっちもだいじ。
～家族が輝くワーク・ライフ・バランス～

山口規容子 (愛育病院)

子育てを取り巻く環境は、多くの小児保健関係者の努力にもかかわらず顕著な改善の兆しは見えてきていない。

その背景には、深刻な少子化、女性の社会進出の増加、核家族化が進む中で育児の孤立化、育児不安の増大等々が挙げられている。

これを受けて、最近国民運動「健やか親子21」の一環として「仕事と子育ての両立」応援フォーラムが全国各地で開催され、男性の子育ての積極的参加を促し、男性も女性も、仕事の仕方、働き方を見直してもっと自分達の生活を豊かにしようという運動が展開された。

その中で、ワークライフバランス (Work Life Balance : WLB) という概念が取り上げられ、積極的にアピールされた。

これは、20年前に米国で始まったとされるが、要するに健康で豊かな生活のために時間が確保できる社会、多様な生き方、働き方が選択できる社会、経済的な自立が出来る社会の確立にある。

育児に関する面からいえば、超過勤務の連続で帰宅が深夜になり、休日は家で体を休めるのみの仕事人間を極力変えて、子どもと過ごす時間を作り、親としての役割を存分に果たすべきであるという提案である。

WLB を推進する立場の側では、これがむしろ仕事の能率を高め、企業のメリットにつながると主張する。

しかし、WLB の概念が世の中に認識され、普及しても「子どもと仕事、どっちも大事」から更に進んで、働く親のために楽しい育児が出来る環境作りを社会全体で考えなければならない。

育児をしながら働く親への支援は、親よりもむしろまず子どもにとってどうあるべきかの視点を欠くことのないよう提言したい。



多くの楽しいわが家 写真提供 山口規容子